

第9回 鶴岡市地域医療を考える市民委員会（会議概要）

- 日 時 令和3年 12月 10日（金） 午後1時30分から3時30分
 - 会 場 鶴岡市役所 別棟2号館 21、22、23号会議室
 - 次 第 1 開 会
 - 2 あいさつ
 - 3 説明・報告・協議
 - （1）事務局説明
鶴岡市地域医療市民アクションプラン体系（案）について
事務局 鶴岡市 地域包括ケア推進室
 - （2）協 議
鶴岡市地域医療市民アクションプラン体系（案）について
 - ・10年後（2031年）の鶴岡市の“地域医療の未来像”について
 - ・10年後の鶴岡市の地域医療の未来像に向けた「3つの市民アクション」について
 - ・「地域医療を学び考えアクションを起こすための市民勉強会」のコンセプト（基本方針）について
 - 4 その他
 - 5 閉 会
-
- 出席委員
瀬尾利加子（委員長）、本間志保子（副委員長）、北風寸美、木村博之、佐藤明美、土田三香子、原田藤四郎、真島正博、水口英俊
秋山美紀（コーディネーター）、福原晶子（オブザーバー）、鈴木千晴（オブザーバー）、八木実（オブザーバー）、鈴木聡（オブザーバー）
- 市側出席職員
健康福祉部長 渡邊健、地域包括ケア推進室長 佐藤清一、地域包括ケア推進室主査 齋藤芳、同室主査 佐藤正、同室調整専門員 伊藤健、同室主事 三浦巧、荘内病院事務部長 佐藤豊、同参事（兼）総務課長 今野一夫、同医事課長（兼）地域医療連携室主幹 土田信一、同地域医療連携室室長補佐 富樫 清
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 4人
- 審議事項
鶴岡市地域医療市民アクションプラン体系（案）について
- 委員発言要旨
（1）事務局説明
鶴岡市地域医療市民アクションプラン体系（案）について
事務局 鶴岡市 地域包括ケア推進室

事務局：委員より出された意見をもとに、「鶴岡市地域医療市民アクションプラン体系（案）」

Ver. 4」を作成したので、その内容について説明します。

このアクションプラン体系は、これまで主語が統一しておらず、「市民」や「主催者側の行政」の視点だったりしていたが、今回、「市民」の視点から見た表現にすべて統一した。また、ここで言うところの「市民」とは、医療者や福祉関係者、行政等も含めたすべての「市民」が対象となる。

はじめに、「10年後（2031年）の鶴岡市の“地域医療の未来像”」について、前回の市民委員会までは、〈こころ通い合う地域医療〉を基本的な未来像とし、その具体的な内容として、1つ目は「市民と医療者が信頼し合い、適切な医療が受けられている」、2つ目が「荘内病院を中核とした関係機関の連携により、将来に渡って安心して医療が受けられている環境が整っている」となっていた。

前回の市民委員会において、「固有名詞を入れてしまうと、その関係者が現在そのような状態になっていないから未来像に掲げていると誤解を招く場合がある。」などの意見がありましたので、「荘内病院」というキーワードを外し、より地域全体で取り組めるようなイメージのキーワードとして、若干抽象的ですが、次のように3つの未来像を掲げた。

まず1つは、「市民ひとりひとりが安心できる地域医療」ということで、私たち「市民ひとりひとり」という視点から地域医療に関わることによって、将来に渡り、安心して暮すことができることをイメージした。

次に2つ目が、「市民と医療者がこころ通い合う地域医療」ということで、「市民と医療者」との視点で関係づくりをすることで、心通い合う状態になることをイメージした。

最後に3つ目が「地域住民が守り育てる地域医療」ということで、「地域住民」という地域単位で、地域医療に関わり、委員の意見のとおり「地域医療を守り育てる」というフレーズを採用し、地域医療を守り、そして育てていくことをイメージした。これは、市民勉強会のコンセプトに掲げた「まちづくり、人づくり」の視点にも繋がる。

次に、「10年後の鶴岡市の地域医療の未来像に向けた 3つのアクション」ですが、まず左から「地域医療を支える連携の仕組みを理解しよう」ということで、予防や介護、障害者福祉なども含めた地域医療を支える連携の仕組みを「知ろう」という段階から、市民アクションを起こしていこうという視点になる。市民が我が事として思えるような広がりのあるフレーズにした。

次に、真ん中ですが、「自分たちが受けたい医療を考えよう」という「考える」という次のステップとなる。前段で地域医療を支える連携の仕組みを「知った」うえで、次に自分たちの受けたい医療を「考えよう」というステップとなる。

最後に右側ですが、「ともに考え、行動する仲間になろう」という「行動しよう」というステップとなり、この「3つの市民アクション」は最初に「知って」→次に「考えて」→最後に「行動する」という体系立てた、繋がりのある流れになっている。

最後に「地域医療を学び考えアクションを起こすための市民勉強会」コンセプト（基本方針）ですが、まずこの題名については、これまで「学び考える」で終わっていたが、「学び考えた」あとに、「アクションを起こす」というもうワンステップ上を目指す内容とした。これは先程説明した「3つの市民アクション」にも連動した考え方となっている。

これに関連して、1番上の「市民・医療者・行政が一緒に学び考え実践する」ですが、前回までは末尾が「学び考える」となっていたが、委員の意見の中にもあったが、「学び考え実践す

る」に変更した。

2番目の「鶴岡市の地域医療の現状や課題、仕組みを正しく理解し、解決策を共に考える」ですが、まず訂正で「正しく」という表現は削除してください。「正しく」といれると、どのように理解すると「正しい」のかなど、基準が明確ではないため、混乱が生じる可能性があるためです。また、ここでも「解決策を共に考える」を追加している。「理解する」だけでは終わらず、次のステップとして解決策を共に考えていくことが重要と考えた。また4つのコンセプトの順番も入れ替えて、最後に「地域医療の視点からまちづくり、人づくりを考える」を入れた。

また、市民アクションプラン体系（案）の左側の「地域医療市民アンケート」については、以前バックキャスティングで作成したロードマップにおいては、3年おきに実施することとしていたが、3年後ではなかなか地域医療に関する変化は見えにくいいため、5年ごとの市民アンケート実施に変更した。

この事務局（案）については、あくまでもたたき台として提案したので、本日委員の皆様の議論により、よりよいアクションプランの体系としていただき、最終決定できればと思う。

（2）協 議

10年後（2031年）の鶴岡市の“地域医療の未来像”について

（委員・コーディネーター・オブザーバー）

- ・主語を「市民」の視点に統一したことで、市民の考えに近くなったのではないか。
- ・「鶴岡市の地域医療の未来像」となっているが、現状（一部）として紹介する病院が市外の場合がある。
- ・医療が終わった先に、介護・障害がある。それぞれの専門分野の連携が大切である。記載の文言だけだと、医療・福祉・介護などが見えにくいので、わかりやすくした方がよいのではないか。
- ・10年後の未来像について、文章で考えた。この未来像には思いが言葉に入っており、主語が統一され、すっきりしていて良いと思う。
- ・主役は多様であり、医療を受ける方も主役となる。大事なのは、医療に関心が低い方から興味・関心を持ってもらうこと。時代の変化の流れが早いので、5年先でもかなり変化があるだろう。アンケートの Spann などを検討するのも必要ではないか。
- ・10年後には大きな総合病院にすべきではないか。この未来像により、医療関係者が一丸となって、よりよい医療提供体制となれば素晴らしいと思う。

（事務局）

医療、福祉、介護だけではなく、まちづくりという視点も大事と考えている。ここで表現できない内容については、今後策定予定の「鶴岡市地域医療市民アクションプラン」の中に盛り込みたいと考えている。

10年後の鶴岡市の地域医療の未来像に向けた「3つの市民アクション」について

（委員・コーディネーター・オブザーバー）

- ・障害者や高齢者、まちづくりなどの文言を入れた方がよいのではないか。
- ・「連携」はNet4Uのことだと思っていたが、今説明を聞いて、介護や福祉もあることがわ

かった。このように言葉だけではわからない可能性がある。

- ・開業医から紹介される総合病院は鶴岡市内でない場合が多いことから、荘内病院の良さを広くPRをしたほうが良い。
- ・アクションプランの具体的なところは見ない可能性があるので、体系図に少し具体的な文言を入れた方がよいのではないかと。紙1枚を見て、情報が伝わる内容がよい。
- ・項目ごとにサブタイトルを付けてもよいのではないかと。
- ・アンケートをとるスパンを3年にした方がよいのではないかと。

(事務局)

「地域医療を支える連携」という文言は、医療の連携を想像する方も多いたことがわかった。また、予防の視点が入っていないので、健康な人も含めているプランということで、文言を再検討していきたい。委員でお気づきの点は、電話、メールなど随時地域包括ケア推進室に連絡をいただければと思う。

「地域医療を学び考えアクションを起こすための市民勉強会」のコンセプト（基本方針）について

(委員・コーディネーター・オブザーバー)

- ・3つ目の「在宅での療養・看取りを視野に入れた地域包括ケアを理解する」は難しい課題と思う。
- ・勉強会の開催について、保健推進員や学校、地域などの活動の中から始めていくのも一つの方法である。
- ・年代で医療への関わり方が違うので、市民の皆さんが参加しやすい方法を検討することが必要である。
- ・勉強して終わりではなく、アクション（実践）が入ってきたのは良いこと。まちづくり、人づくりが入っていてよいと思う。
- ・年代によって、医療の課題が違いうだろう（例えば、産婦人科が減っている）。キーワード（文言）として「教育」を入れても良いのではないかと。
- ・地域医療に関するDVDを製作し、様々な場面で流していくのはどうか。

(事務局)

委員の皆様、御意見ありがとうございました。

本日議論いただきました内容は、今年度策定予定の「鶴岡市地域医療市民アクションプラン」の骨子となるものであり、今後、これを体系立てて、今年度実施したプレアンケートの結果なども踏まえながら、肉付けして今年度中に完成を迎えたいと思う。

市民勉強会を具体的にどのように進めていくか

(事務局)

令和4年度市民勉強会実施について現状のイメージは、市内1か所で開催し、年代を問わず、年間5回シリーズ、定員50名位と考えている。市民勉強会を実際に開催し、地域医療を学んだ市民が核となり、お住いの地域等で地域医療について広めていただき、知識を広めていくよ

うなステージになる。また、市民と医療者との交流も図っていき、既に先進的に実施している「荘内病院ドクター出前講座」などとのコラボレーションも検討している。

(委員・コーディネーター・オブザーバー)

- ・ 参画者を広めげいくために、オリパラが例としてある。具体的には、マークを様々な団体を通じて普及させていく。短い動画を作って普及させていく。
- ・ 医療従事者と市民の考えには良くも悪くも違いがある。良いことかどうか、実現できるかどうかを検討・共有していくことも大事。医療の進化のスピードが速いので、そこに合わせていくことも必要かもしれない。
- ・ 様々な勉強会はあるが、参加者がだいたい同じ傾向がある。結局、結果が同じ場合がある。よって、興味がない人、子どもたちの教育という切り口で取り組んでいくことも必要と思う。医療とそれを支える地域連携のしくみを勉強することも大事で、医療人口を増やすことに繋がる。
- ・ 「地域、医療、介護」というワードを入れると具体的なイメージがより湧くのではないか。
- ・ 荘内病院ドクター出前講座を5、6年前からやっていた。平日午後、2時間くらい行い、その後、車座トークをして意見交換している。
- ・ ACPについて健康な時に考え、力を入れていく。子どもに伝え、家族に広がっていくことが効果的と考え実施していく。
- ・ 市民勉強会のターゲットを検討し、効果的に進めていく。
- ・ 医療への安心感を得るについては、一定の時間がかかると思われる。
- ・ 他県に比べると鶴岡の人は医療について、いろいろと考えている印象がある。
- ・ 医療の最後は心と心の繋がりがとても重要である。

(委員長)

これで、「3 説明・報告・協議」を終了します。